

ご視聴の皆さまへ

- 配信動画および資料の著作権は、横浜市戸塚地域療育センターが保有します。
- 動画および資料の無断転載の禁止、複製、転用、販売等の二次利用することは、固く禁じます。
- 本講座の配信動画は、当センター利用者の保護者の方のみ視聴可能となります。そのため、第三者に動画および資料のURLを拡散することはお控えください。



自閉スペクトラム症 《 入門講座 》

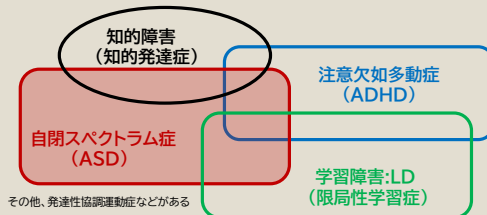
横浜市戸塚地域療育センター
発達精神科 今井美保

「自閉症」に、ときにある誤解

- (×) 目が合わない、言葉を読さない
- (×) 人が嫌い、自分の殻に閉じこもる病気
- (×) 親の育て方やしつけが悪くて、心を閉ざした
- (×) 自閉症と診断されたら、将来、自立できない
- (×) 専門療育に通わなければならない
- (×) 早期療育をすれば、自閉症は治る
- (△) 早ければ早いほど「療育」は有効だ
- (×) 早期療育しないと手遅れになる
- (×) できるだけ早く、頻度多く療育機関に通った方がいい

神経発達症のいろいろ

※「発達障害の理解のために」(厚生労働省HP)を基に改変



神経発達症(=発達障害)

- **生まれながら**の発達特性である
- 生物学的基盤にもとづく、「**非定型発達**」
- **脳の機能**に原因がある、と考えられている
- それによって、**生活に支障**(社会的困難)が生じる
- **小児期**から特性が見られる
- 成長・発達に伴い**変化しながら**
- 特性そのものは、生涯にわたり**持続する**

自閉スペクトラム症とは？(診断基準)

- 社会的コミュニケーションおよび対人相互反応の問題**
 - (1) 相互の対人的情緒的関係
 - (2) 非言語的コミュニケーション
 - (3) 人間関係を発展させ維持し理解すること
- 行動・興味・活動の限定された反復的な様式**
 - (1) 常同的または反復的な身体運動、物の使用、または会話
 - (2) 同一性への固執、習慣への頑ななこだわり、儀式的行動様式
 - (3) さわめて限定され執着する興味
 - (4) 感覚刺激に対する過敏さ・鈍感さ
- 発達早期から症状が見られる**
- 社会的不適応がある**
- 全般的な発達の水準では説明できない**

原因は何ですか？

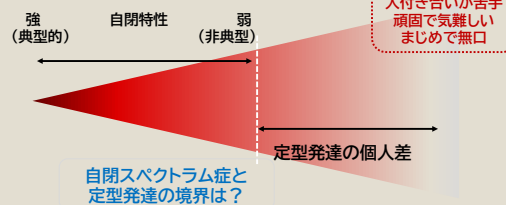
- ・多くが、生まれつきの発達特性で、
 - ・脳の機能に原因があると考えられている。
 - ・育て方や環境が原因ではありません。
- * 他の疾患に合併することもあります。
- * 虐待や愛着形成不全から、
似たような状態になることもあります。

どのくらいいますか？(頻度)

1970年代	自閉症は 5000人に1人
1980年代	2500人に1人
1990年代	500人に1人
2000年代	250人に1人
2010年代	100人に1人

現在は、自閉スペクトラム症は、**100人に3～5人**？
半数以上が、知的障害のない群

“スペクトラム”の考え方



「診断」することの意義は？

- * 子どもを理解するヒント(手掛かり)が得られる
 - * 診断名をキーワードに、支援方針を共有できる
 - * 必要な支援やサービスを受けやすくなる
 - * 将来に向けた、“育ち”のイメージが持てる
 - * 「今、できること」がわかる(今はまだ難しいことも…)
- ※ 幼児期の診断は、戦略的なもの。
- * 予防的な対応ができる

どうやって「診断」するのですか？

1. 発達特性の見極め

発達経過の聞き取り
直接行動観察
発達検査(必要に応じて)

2. 社会的不適応の存在

* 医学的検査は基礎疾患の検索
(血液・CT/MRI・脳波など)

乳児期はどんなお子さんでしたか？

- ☐ おとなしくて育てやすかった／育てにくかった
- ☐ 人見知りをしない／非常に人見知りが強かった
- ☐ 誰に抱かれても平気／そり返り、抱っこしにくかった
- ☐ 手が掛からず反応が乏しかった／いつも泣いてばかり

幼児期によくある相談①

- ☐ 言葉が遅い、オウム返し
- ☐ 視線が合いにくい、指さしをしない(指さした方向を見ない)
- ☐ 名前を呼んでも返事をしない(無視しているよう)
- ☐ 落ち着きがない、迷子になっても平気
- ☐ 要求はしてくるが一方的で、指示に従わない
- ☐ 思い通りに行かないとカンシャク
- ☐ 友達に手が出る、かみつく
- ☐ 切り替えが悪い(行動・気持ち)
- ☐ 環境に慣れにくい

幼児期によくある相談②

- ☐ よく喋るが、一方的で会話にならない
- ☐ 肝心なひと言が言えない(貸して・入れて・やめて)
- ☐ あいさつ・返事をしない
- ☐ 興味のあることには集中するが、興味のないことはしない
- ☐ 他者との距離感の取れなさ(近すぎる・遠すぎる)
- ☐ 勝敗への執着、一番へのこだわり
- ☐ 他児とのトラブル(勘違いや思い込み)
- ☐ 環境の変化や、行事が近くなると、行き渋り
- ☐ 注意・叱責・失敗・修正への抵抗

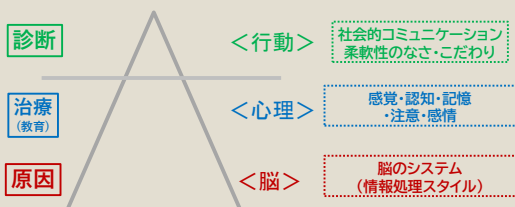
学齢期によくある相談

- ☐ 自分の気持ちや考えを言葉で表現することが苦手
- ☐ 相手の気持ちや考えを読み取ることが苦手
- ☐ 言えはわかるが、言わないとわからない(意図理解の弱さ)
- ☐ “暗黙の了解”がピンと来にくい
- ☐ 自分なりの思い込みや解釈(勘違いしやすい)
- ☐ 自分なりの正義感が強く、他者にも強要する。
- ☐ 報告・連絡・相談・交渉・雑談が苦手

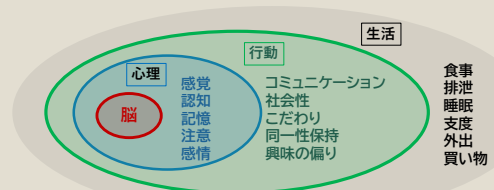
その他

- * 落ち着きがない
- * トイレトレーニングが進まない
- * 偏食
- * 聴覚過敏、耳ふさぎ
- * 体の使い方がぎこちない、不器用
- * 発音不明瞭・吃音(どもり)
- * 睡眠の問題(リズム不整、入眠困難、中途覚醒)
- * 学習の問題(読み書き、得手不得手)
- * 爪かみ、夜尿

原因・診断・治療



ASD特性が生活に及ぼす困難



どのように育っていくのですか？(経過)

- * 同じ診断名でも、経過は一人ひとり違います。
- * どんな環境で、どのような関わりをされたか、どんな経験を積んできたかによって、経過は異なります。
- * つまづきやすいポイント、対応のコツには共通している部分があります。

対人関係の持ち方の3つのタイプ

- ◆ **孤立型**(人との関わりを求めない)
ペースを乱されると混乱
- ◆ **受身型**(従順だが、指示待ち)
Noと言えない、過剰適応が心配
- ◆ **積極型**(人懐こく積極的だが、一方的で奇妙に見える)
誤解されやすい、対人トラブルが生じやすい

想定外・・・混乱・不安

- ・カンシャク／パニック
- ・泣く／怒る
- ・固まる(freeze)
- ・暴れる(暴力・暴言)
- ・拗ねる・ふてくされる
- ・床に寝転ぶ・座り込む
- ・机の下に隠れる
- ・逃げ出す



ASDの子どもの“本当の？”気持ち

思った通りになるはずだ

気の済むまでやりたい！

正しくありたい
間違えたくない
失敗したくない

叱られたくない
否定されたくない

ASDの特性 (強み・ストレングス・素敵なところ)

- ◆ 嘘をつけない、正直で一途、裏表のない性格
- ◆ ルールを守る真面目さ・律儀さ
- ◆ 秩序を大切に思う気持ちの強さ
- ◆ 正義感が強く、妥協しない
- ◆ ルーチンを心地よく感じる(変わらないことが安心)
- ◆ 適度な枠組みや見通しがあると安心
- ◆ 記憶力に長け、視覚優位な認知特性
- ◆ 自分が納得したことをやり遂げる芯の強さ
- ◆ 興味関心は、狭く深く、知識欲・好奇心が旺盛
- ◆ 自慢したり、著ったりしない、謙虚さ

ASDの特性 (弱点・理解して支援が必要なところ)

- ◇ 状況や、場の空気を読むことが苦手
- ◇ 他者の意図・気持ちに気づきにくい
- ◇ 「人との関係」より、「興味ある物への関心」が優先しがち
- ◇ 物事を字義通りに受け取ってしまう(曖昧なニュアンスはわからない)
- ◇ 不確定なことを楽しむ、経験していないことを想像するのが苦手
- ◇ 応用が効かない、柔軟性が乏しい、想定外のことで混乱しやすい
- ◇ 一度決めたことをリセットすることが苦手
- ◇ 二者択一で思考が硬い(完璧主義になりがち)
- * 打たれ弱く、傷つきやすい。そして、癒えにくい。
- * セルフモニタリングの弱さ

ASDの子どもの“育ち”の目標(ゴール)

- 特性を持ちつつも、健やかに育つこと(“持ち味”)
- 社会的困難を最小限に、幸せに暮らしていくこと
- 健全な心の発達(人格形成)
- その子なりの自立

* 二次的な問題の予防

自信喪失、自己肯定感の低下、被害的な認知、イライラ
攻撃性、孤立、引きこもり...

「療育」って何? = 治療+教育

- 子どもなりのペース・スタイルで成長・発達することを前提に
- わかりやすく、環境を整えること(環境調整)
- わかりやすい存在になること
(理解者・通訳者・代弁者・モデル)

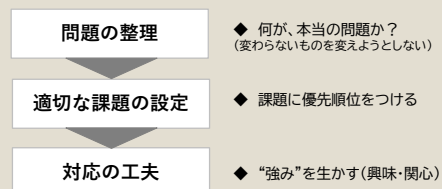


- * 通常の子育てで、ときに虐待になり得る
- * 絡んだ糸を解くのは難しい(時間が掛かる)

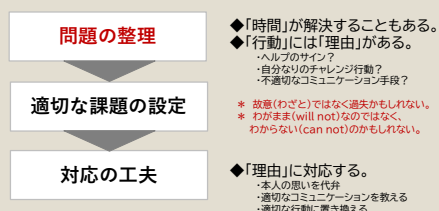
基礎的環境整備

- * 静かで、整理された空間 【安心・安全】
- * 適度な枠組みがある 【構造化】
- * 見通し(予定・スケジュール) 【視覚化】
- * 明確な指示、ルール 【具体化】
- * 肯定的な声掛け 【ポジティブ】
- * 一貫した対応 【一貫性】

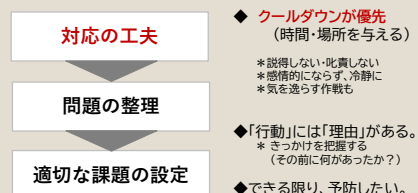
療育的対応を考える際の道すじ



いわゆる“問題行動”への対応



かんしゃく・パニック



新しいスキルを身につける

問題の整理

適切な課題の設定

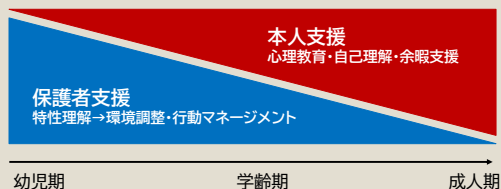
対応の工夫

- ◆ “今、できそうなこと” から
(優先順位をつける)
- ◆ 達成感が得られるよう計画的に
欲張らず、スモールステップで
- ◆ 一貫した取り組みが重要
- ◆ “強み”を生かす(興味・関心)

将来の適応を決めるもの

- ◆ 能力(もともと持って生まれたもの)
- ◆ 経験(大人になるまでに経験し、学習したもの)
- ◆ 出会い・運(信頼できる人との出会い)

支援の対象



保護者へのメッセージ

- 安心かつ安全な居場所の提供、適度なルーチン
- 理解者・通訳者・環境調整の担い手、モデル
- 本人なりのペース・本人のなりのスタイルを尊重
- 適度な距離感で、一貫した関わりを
- 学習より生活のスキルを
- 好きなこと・興味関心は大切に
- セルフモニタリングの弱さを助ける
- いずれは離れていく存在だから・・・
- 上手に他人に頼れるスキルを(ヘルプを出す・相談する)
- 情報提供はするが、決めるのは本人

Neurodiversity: 脳の“違い”

神経学的多様性 = いろんな“ふつう”がある



“支援者”の心得

- * 変わらないものを变えようとしな
本来育つべき道すじを妨げない
- * 結果をすぐに求めない
育つには、そのための“時間”が必要
- * いつまでも成長し続けることを信じよう
待つことが大切なときもある
- * 一人で抱え込まない
支援者にも支援が必要

「自閉症」に、ときにある誤解

- (×) 目が合わない、言葉を話さない。成長・発達と共に変化していくことが多い。
- (×) 人が嫌い、自分の殻に閉じこもる病气。違います。二次障害としてあり得る。
- (×) 親の育て方やしつけが悪くて、心を閉ざした。脳の違い。親は共同療育者。
- (×) 自閉症と診断されたら、将来、自立できない。
目標は個々に異なるが、その子なりの自立が目標である。
- (×) 専門療育に通わなければいけない。生活の中に療育的な考え方を取り入れることが大事
- (×) 早期療育をすれば、自閉症は治る。療育の目標は、自閉症を治すことではない。
- (△) 早ければ早いほど「療育」は有効だ。(×) 早期療育しないと手遅れになる。
早期＝「語学習する前」。初期の時期は、特性理解と環境調整がまず重要な時期。
一度、学んだことを修正されるのは本人にとっては苦しく時間がかかることである。
- (×) できるだけ早く、頻度多く療育機関に通った方がいい。
やミクモに子どもに多くの経験をさせるのは混乱させるだけなこともある。
子どもに必要なことを保護者がしっかりと見極めて選んでいけることが大切。